

令和7年9月定例記者会見要旨(令和7年9月22日)

1. 市長は2期目、防災に力を入れているとされています。

南海トラフについて県が2日に発表した新たな被害想定では、災害関連死が増え、死者・避難者数が大きく増加しました。気象災害は激甚化しており、市民の安全確保は急務です。

県の被害想定をどのように受け止めていますか。併せて、市として今年度スタート、または強化する取り組みが決まっていたら、教えてください。

香川県が令和7年7月1日に南海トラフ地震等の震度分布や津波浸水想定などを香川県地震・津波被害想定（第一次公表）として公表しました。また、9月2日には、地震発生直後の物的・人的被害の推計結果を第二次公表として発表しました。

坂出市の今回の公表結果につきまして、最大クラスの南海トラフ地震では、震度分布、液状化危険度は、前回の平成25年と比較して、大きな変化はありませんでしたが、津波の被害想定は、最高津波水位が2.8mから3.2mと、前回推計から0.4m上昇しており、今まで津波浸水想定区域外であった沿岸部が浸水想定区域内になっております。津波浸水想定区域が拡大されたことに伴い、最大クラスの南海トラフ地震の津波による死者数は80人増加し310人となっております。また、災害関連の死者数が今回新たに推計されており、坂出市の最大死者数は、前回の290人から550人となっております。また、避難所への避難者数につきましても4,000人増加し、17,000人と大幅に増えております。

今回、新たに示された被害想定は、本市にとって非常に厳しいものであり、市民の安全・安心を確保することは、何よりも優先すべき最重要課題であることから、事前の備えによって被害を最小限に抑える「事前防災」の取り組みの重要性を、あらためて感じております。

今年度の「事前防災」の取り組みとしましては、能登半島地震では古い木造住宅の倒壊が多く、倒壊家屋が救助や復旧の妨げになったことから、災害時の家屋倒壊リスクの軽減を図るため、従来の老朽危険空き家除却支援事業補助金の予算額を増額し、30件が補助対象となっております。また、今年度「旧耐震空き家除却促進事業補助金」を新たに創設し、すでに28件の申請があったところであり、補助対象となった空き家については、今年度中に除却が完了する予定であります。

また、災害発生時の生活環境や衛生環境の悪化は災害関連死の増加に直結することから、本年11月より、家庭にある井戸を災害用応急井戸として公募し、有事の際は近隣において活用するとともに、大規模な井戸を使用している事業所とは、協定を締結し、生活用水の確保に努めてまいります。

避難所の生活環境の質の向上を図るため、携帯トイレ、簡易ベッドや間仕切りテント等の備蓄物資の充実に努めるほか、応急対策期から復旧・復興期にかけては、物資の補給や支援員の派遣など、広域的な支援体制の確立が欠かせないことから、他の自治体などと積極的に災害時相互応援協定の締結を進めており、本年4月には岡山県総社市と、8月には兵庫県赤穂市と災害時相互応援協定を締結したところであります。

いずれにいたしましても、南海トラフ地震は周期的に発生している災害であり、過去大き

な被害を発生させております。このような大規模地震災害から市民の生命・財産を守るためには、不断の備えが必要になってまいります。今回の被害想定の見直しを一つの契機として、さらなる災害に強いまちづくりの推進に努めてまいります。

2. 11月から市中心部で始まる自動運転「レベル2」の実証事業について期待するところ、特に、実証事業内で重視している部分がありましたら教えてください。
一方、同じく自動運転レベル2の実証実験を行っていた東京・八王子では、8月に車両の衝突事故が発生しました。八王子の自動運転システムの開発メーカーは坂出の車両と同じと聞きましたが、何か影響はあるのでしょうか。

全国的にバス乗務員不足が深刻化しており、昨年10月には、本市においても、バス乗務員不足が原因で、路線バスの大幅な減便となりました。そのような状況において、市民の生活移動手段を将来にわたって確保していくための取り組みとして、自動運転バスの可能性を検証する実証運行を行うものであります。

今回の実証運行は、運転手が乗務し、走行時に危険を感じた場合などは、必要に応じて手動運転を行う「自動運転レベル2」による運行です。11月14日から12月3日まで、JR坂出駅を起終点として、マルナカ坂出店など生活利便施設を経由して循環するルートを、1日7便、運賃無料で運行する予定です。

この実証を通じて、自動運転技術や走行環境、社会受容性等に関するリスクアセスメントに取り組み、将来的に運転手の乗務しない自動運転レベル4サービスの社会実装をめざします。

そのためにも、まずは市民の皆様は自動運転サービスについて広く認知していただき、乗車体験を通じて、自動運転への関心・理解を深めていただくことが重要だと考えております。

また、八王子市で発生した事故については、現在、原因調査中と聞いており、システム事業者には、原因究明と再発防止を求めているところですが、本市で運行を予定している車両・システムは、八王子市の事故車両・システムとは異なるもので、より性能が高い車両とことです。

そのため、現在のところ、11月からの実証運行に影響を及ぼすものではありませんが、運行にあたっては、安全性を第一に考え、運行開始前の調律作業における安全確認の徹底や運転手への研修、運行中の監視体制の強化を図っていきたいと考えております。